

3

残される広島／創造されるヒロシマ

広島を経験はどのように残され、「ヒロシマ」はどのように創造されてきたのでしょうか。本講義では、原爆をめぐる記録と表現、広島にまつわる原爆文学、原水爆禁止運動と広島、世界史のなかでの広島、復興をみつめる美術、そして復興と広島のデザインという各回のテーマから、広島の変容の諸相を検討していきます。

会場	対面： サテライトキャンパスひろしま（広島県民文化センター5階） オンライン： -
時間	①10:40～12:10 ②13:00～14:30 ③14:40～16:10
定員	対面： 100名 オンライン： -名
対象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	一次申込締切： 4/11（木） ※ 定員に達しなければ 6/7（金）（必着）まで先着順で受付

原爆をめぐる記録と表現

講師： 人間社会科学研究科 准教授 中尾 麻伊香

第1回

6/15（土）

①10:40～12:10

広島を一瞬にして変貌させた原爆は、誰によってどのように記録・表現されてきたのでしょうか。本講義では原爆をめぐるさまざまな認識の方法について、記録と表現という観点から検討します。「客観的」とされるものと「主観的」とされるもののあいだにはどのような齟齬や相互作用があったのか、種々の記録は何を目的として残されどのような作用を持ったのか、何が残されなかったあるいは風化したのか、といったことを考えていきます。

原爆文学の諸相

講師： 人間社会科学研究科 准教授 柳瀬 善治

第2回

6/15（土）

②13:00～14:30

「広島にまつわる原爆文学」の作品を栗原貞子、原民喜、太田洋子の作品を対象として読み、そこでの死者や他者についての表象を題材として、倫理性や表象不可能性の問題について考えます。他の原爆文学作品やそれらの研究動向もできる限り紹介していきます。そして、2024年に原爆文学を読むとはどのような事かという現在をめぐる問題へとつなげていければと考えています。

「原水爆禁止運動」と広島**講師：人間社会科学研究科 教授 小池 聖一**

第3回

6/15 (土)

③14:40~16:10

運動は、1954年（昭和29年）3月1日の第五福竜丸被災事件に対する東京・杉並からの水爆禁止署名運動にはじまりました。このなかで、広島における原水爆禁止運動の成立と分裂の過程について、それを主導した「知識人」とマスコミに焦点をあわせてお話いたします。

世界史のなかで広島を考える**講師：人間社会科学研究科 教授 水羽 信男**

第4回

6/22 (土)

①10:40~12:10

日本は間違いなく「唯一の戦争被爆国」ですが、広島に投下された原子爆弾による犠牲者は、現在の日本をルーツとする人びとだけではありませんでした。また広島は日清戦争に際しては臨時首都となるなど、アジアのなかで重要な役割を果たしてきた都市で、広島に師団司令部があった第5師団もアジア各地で戦ってきました。この講義では広島への原爆投下とその前史を世界史のなかで考えたいと思います。

復興を見つめる美術**講師：人間社会科学研究科 助教 内山 尚子**

第5回

6/22 (土)

②13:00~14:30

広島の戦後復興への芸術家たちの関わりを検討します。特に、丹下健三の招きを受け1950年代初頭に復興事業に参加した日系アメリカ人彫刻家イサム・ノグチに注目します。ノグチの仕事の内容に加え、他の芸術家たちがそれをどのように見ていたのかにも目を向けることで、芸術家たちの想像力のなかで広島の「復興」がどのように位置付けられていたのか、考えてゆきたいと思います。

復興と広島のデザイン**講師：人間社会科学研究科 准教授 匹田 篤**

第6回

6/22 (土)

③14:40~16:10

焼け野原からの復興は、人々の生活を取り戻すことと共に、形を失ったものを取り戻す作業と捉えることができます。街路に建物を建て、崩れたブロックを元に戻し、電気ガス水道などを復旧させ、電車を走らせます。その過程に注目することは、当時の人々にとっての、そして今もきっと同じであろう広島人の拠り所=アイデンティティを考えるヒントとなるでしょう。これからの広島を考える上で、復興のデザインを俯瞰し、次の百年の広島のデザインを考えていきます。

講座内容に関する
お問い合わせ先

総合科学系支援室（学士課程担当）

電話：082-424-7919

メール：souka-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp